

モンゴル・日本「春の日本留学フェア-2026」

実施報告書

作成日：2026年5月15日（金）

作成者：D.ムンフトヤ

標記の第3回「春の日本留学フェア 2026」を以下のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

1. 開催日時：4月25日（土）11：30～16：00
2. 開催場所：モンゴル・日本人材開発センター（多目的室、ロビー、図書室）
3. 実施体制
 - ① 春の留学フェア実施体制
 - 1) 主催：モンゴル・日本人材開発センター
 - 2) 共催：モンゴル国立大学（NUM）
 - 3) 後援・協力：在モンゴル日本国大使館、国際協力機構（JICA）、モンゴル日本語教師会
 - ② センター内フェア実施体制
 - 1) 総括：図書交流課
 - 2) 総括補佐：JICA 専門家、総務課
 - 3) 会場設営：総務課
 - 4) 通訳サポート：ビジネス課、日本語課
4. 参加大学・機関様（五十音順） *合計5校。ハイブリッドでのご参加
金沢大学、京都先端科学大学、長崎大学、名古屋大学、立教大学
5. 現地参加対象者と当日の参加者数
 - ① 参加対象者：高校生、大学・大学院生、一般社会人、大学関係者など
 - ② 参加者数：アンケート配布ベースで221名（内アンケート回答者数：184名）
（センター来館者数：（来場者延べ数）：423名）
6. 全体プログラム
 - ・4月25日（土）
 - ① 日本留学概要説明（モンゴル・日本人材開発センター）
 - ② 国費留学生試験制度について（在モンゴル日本国大使館）

- ③ 各大学紹介プレゼンテーション（参加大学）
- ④ JOTO EDUCATION CENTER の科学・物理教師、O.ウーガントグトフ氏による「EJU 科学・物理の効果的な対策方法」講演
- ⑤ モンゴル・日本センターによる個別相談。

7. 広報実績

- 2月5日：
 - JICA と JASSO のホームページにて開始
 - JICA 本部大学連携課より MOU 締結大学への一斉メール
 - JICA の国内機関へ Teams 経由で広報、「民連×国内機関×在外ネットワーク」のグループ
 - JASSO さんのウェブページ掲載 と JASSO さんの会員大学へのダイレクトメール
- 3月19日：日本センターFacebook、インスタグラム、ホームページで広報を開始。
- センター各種メーリングリスト（受講生（日本語コース、PC コース）、無料相談窓口利用者、日本語教師会）を活用し、約1万名へ案内を発信
- 4月9日：Joto Education Center とイベントのポスターを作成し、投稿した。
- 4月15日：Facebook 有料 BOOST POST サービスでフェア案内を発信
- 4月15日：日本語教育機関のメーリングリストにて、春の留学フェア開催の案内メールを送信した。

別添①-留学フェアスケジュール

別添②-ポスター

8. アンケート集計

留学フェア 4月25日（土）回答者数 184名（回収率約 83.3%）*集計結果は別添③参照

9. 参加大学からのコメント：

- ・事前のお打ち合わせ、当日の運営やブースでのご対応など非常に手厚くサポートいただき、大変心強かったです。また現地でのフライヤー印刷についても、快くご対応いただき大変助かりました。これから出願される方、9月入学予定の両社と面談をすることができたことは、春秋両フェアに出展することの強みであると感じましたので、今後も年2回の参加をしていけたらと思います。
- ・資料のモンゴル語翻訳などの事前準備が整っていて良いです。会場全体の様子も見る事ができるようになり、参考になりました。
- ・ブースでの個別相談に際しては、通訳に加えて各プログラムの案内や問い合わせ事項のお取

りまとめ等、種々ご対応いただき大変助かりました。

10.参加大学からの提案について：

・貴センターによる日本留学の概要説明や、他大学のプレゼンテーションが行われているロビーの様子を共有いただきおりましたが、会場の音声共有も可能であれば、ご対応をご検討いただけますと幸いです。

・お客様との対話の中で、機材トラブルにより声が届きにくいことが重なっております。円滑なコミュニケーションを維持し、お客様への印象を損なわないためにも、パソコンやマイク等の機材環境の改善をご検討いただけますと幸いです。

11.各大学担当通訳者からのコメント：

金沢大学のブース担当者：

当日は金沢大学のブースに約 80 名の来場者が訪れ、大学紹介をはじめ、日本語および英語による学部プログラムの案内を行いました。特に、大学院プログラムへの関心が高く、多くの質問が寄せられた点が印象的でした。また、日本語や英語が堪能な来場者については、本学担当者とオンラインで直接対話を行うことで、質疑応答が円滑に進みました。

京都先端科学大学のブース担当者：

来場者なの多くは「英語で学びたい」という強い意向を持っていました。また、専門科目に加えてカリキュラム内に日本語講座が組み込まれている点についても、非常に高い関心と評価をいただきました。前回のフェアで工学部の情報をもらうのが多かったが、今回はビジネス、バイオ学部を希望している人も多かったです。よく聞かれた質問として「SAT 試験の何点をとれば合格するか」「奨学金があるか」「一年次からの奨学金給付の可否」「入学手続きの具体的なフロー」などの質問でした。

長崎大学のブース担当者：

医学部・歯学部に対する関心が特に高く見受けられた。履修言語については、英語および日本語を希望する来場者の割合は概ね半数ずつであった。日本語能力に関しては、JLPT N2・N1 取得者も一部見られたものの、多くは N4～N5 レベルであり、高校卒業までに N2 取得を目標としている来場者が多かった。また、日本語または英語で円滑なコミュニケーションが可能な来場者については、大学担当者と直接会話してもらうことで、対応の効率化および円滑な情報提供につながった。配布したパンフレットはコンパクトかつ分かりやすい構成で、英語・日本語の両言語に対応していたため、来場者への説明もスムーズに行うことができた。

名古屋大学のブース担当者：

来場者の多くは、工学系分野（電気電子工学・化学工学）やデータサイエンス関連分野に高い関心を示しており、理学部・経済学部に関する相談も見られた。

また、学費や奨学金制度、入試・出願手続きに加え、日本語・英語の両言語で学べるプログラムについての質問が多く寄せられた。

立教大学のブース担当者：

立教大学ブースでは、今年は英語で学ぶ PEACE プログラムへの関心が特に高かった。昨年の留学フェアでは、日本語で学ぶプログラムに関心を示す来場者が比較的多く、全体の7割程度を占めていた印象があったが、今年はそれに比べて英語によるプログラムへの関心がより高まっていると感じられた。来場者の中には、これまでアメリカ留学を検討していたものの、近年の留学資格をめぐる状況の厳しさを受け、日本留学に関心を向けるようになったという声もあった。また、PEACE プログラムにおいて、入学試験を受ける必要がなく、SAT/ACT のスコアを活用して出願できる点に関心を示す来場者も見受けられた。医学部の有無に加え、IT 分野や建築分野についての質問もあった。さらに、卒業後の進路に関する質問も複数あり、就職率や卒業生の主な就職先となる業界・企業について説明を行った。

大学院（修士課程）については、特にビジネス分野への関心が見受けられ、学部課程のみならず、大学院進学も視野に入れて情報収集を行う来場者も一定数確認された。

12.全体として

・来場者の進学ニーズおよび関心分野について

今回のフェアでは、英語で学べる学位プログラムへの関心が非常に高く、多くの来場者が「英語で専門分野を学びたい」と考えている傾向が見られた。一方で、日本語学習への意欲も高く、「英語で学びながら日本語能力も身につけたい」というニーズも共通していた。また、来場者は学問分野だけでなく、SAT/ACT を含む入試制度、奨学金、学費などの経済的支援、出願手続きといった実務的な情報にも強い関心を示しており、進学後を見据えた現実的な情報収集を行っていた。さらに、学部課程だけでなく大学院進学への関心も高く、関心分野については工学系に加え、ビジネス、バイオ、IT、建築、医学・歯学など、多様化が見られた。

全体として、日本留学は「日本語で学ぶ場」だけでなく、「英語で専門教育を受けながら国際的なキャリア形成を目指す選択肢」としての魅力が高まっていることが、今回のフェアの大きな特徴であった。

1) 良かった点：

- 例年同様、JICA 事務所の広報ネットワークを通じて春の留学フェアの案内を発信することができ、幅広い周知につながった。
- また、例年同様、JICA モンゴル事務所を通して、参加大学からの案内資料等を通関トラブルなしに無事に受領できた。
- 各大学の情報を FB ページにて掲載したことで、日本へ留学したい人々へ宣伝できた。
- ゲストとして、JOTO EDUCATION CENTER の科学・物理教師である O.ウーガントグ トフ氏を招き、「EJU 科学・物理の効果的な対策方法」をテーマとした講演を実施した。講演では、来場者が実際の問題に取り組む体験型の内容も取り入れられ、具体的な情報を直接聞くことができる有意義な機会となった。参加者からの評価も高く、非常に好評であった。
- ご参加いただいた各大学の情報をフェア特設サイトおよび FB ページに掲載したことで、日本への留学を希望する方々への効果的な宣伝ができた。また、真剣に進路を考えている方々にとって、必要な下準備を整える手助けとなった。
- 当日、開会式から大学の発表までのプログラムをモンゴル・日本センターの Facebook でライブ発信した。視聴数は 6402 回となった。
- 昨年、参加大学からいただいた提案を生かし、今回は日本側からも当日の会場全体の様子をリアルタイムで確認できるライブ配信サービスを導入し、閲覧用リンクを共有した。

2) 今後の課題

- 今後、会場運営および機材関連の状況をより良くするため、IT 担当と相談しながら改善策を検討する。
- また、終了後の大学からのアンケート、来場者アンケートの意見を次回フェアに可能な範囲で活かしていきたい。

以上



写真 1. 個別相談



写真 2. 個別相談



写真 3. ブースの相談



写真 4. ブースの相談



写真 5. ロビーの様子



写真 6. 大学のプレゼンテーション

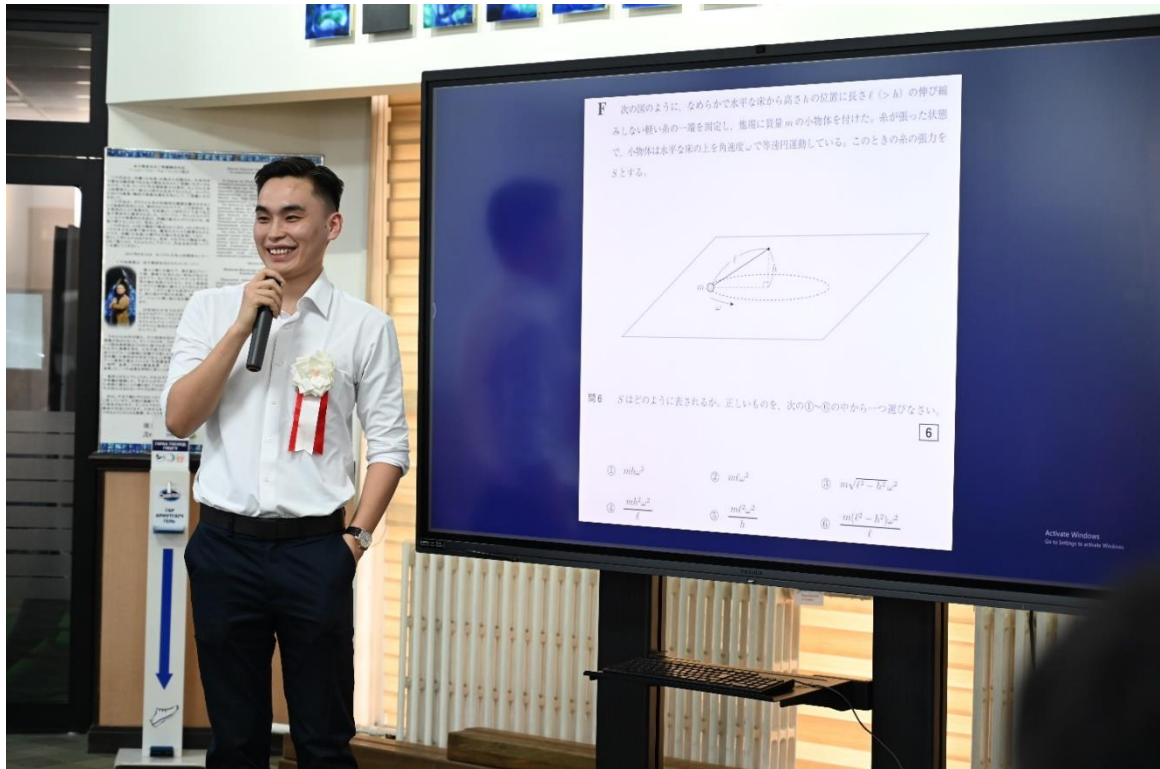


写真 7. JOTO EDUCATION CENTER の科学・物理教師、O.ウーガントグトフ氏による
「EJU 科学・物理の効果的な対策方法」講演



写真 8. ロビーの様子